



先住民とエバンス姉妹

北星学園創立百周年記念館

矢島 あづさ

アイヌとの交流

昨年8月のある日、女子中高6年生5人組から「アイヌと北星の関わりがわかる資料はありませんか？」と質問され、一冊のアルバムを棚から取り出しました。



Ainu houses



Ainu costumes

右の2枚の写真は、エバンス先生の妹であり、1918年11月から1年ほど北星の英語教師を務めたリリアン先生の個人的なアルバムに貼られています。

この他に、米国人宣教師たちが船で日本にやって来たようすや大正時代の札幌の町並み、休暇中に訪れた全国各地の観光・避暑地の写真も貼られており、宣教師の日本での日々を視覚的に知ることができる貴重な資料です。



リリアン先生の「5年日記」

上記写真のキャプションに、日程や場所が書かれていませんが、リリアン先生の「5年日記」（1918年～1921年までのメモ）を確認すると、1919年4月21日に旭川のアイヌコタンを訪れていることが判明しました。日記によると20日に旭川教会でイースターを迎え、翌日ホワイトナー宣教師の家で写真を撮り、アイヌコタンと学校を訪れています。エバンス先生とリリアン先生が一緒だったことも、左の写真で分かります。



旭川のホワイトナー宣教師の家で。後列右がエバンス先生、前列中央がリリアン先生

インディアンと遊んだ経験

エバンス姉妹の両親は、英国ウェールズ地方にルーツを持つアメリカ人です。父デビッドは長老派教会の牧師となり、福音宣教師団の活動として、インディアン教会や学校で働きしました。母マーガレットも婦人会などでインディアンと交流を深めていました。

そんな訳で、姉妹は幼い頃から国籍や民族の異なる子どもたちと木登りしたり、馬に乗ったり、一緒に遊んだ経験があります。言葉もウェールズ語、英語、インディアン語を使い、人種差別や偏見を持たずに育ちました。やがて姉

は海外宣教を志し、妹はインディアン学校の先生になりました。



1917年 北星女学校創立30周年記念野外劇

北星の卒業生がエバンス先生を語るとき、熱心に指導された英語劇の印象が強いようです。クリスマスや記念式典で催された「若草物語」「ヴェニス商人」「真夏の夜の夢」などの思い出をよく耳にします。しかし、実はインディアンをテーマにした演劇やページェントの写真も多く残っているのです。

幼少期に芽生えた先住民との友情、エバンス先生は高校や大学時代、彼らを守るために闘ったこともありましたが、北星の生徒にも異文化への理解を教育したかったのかもしれません。



モンタナ州のアシニボイン族がリリアン先生のために作った人形